

新しい年を迎えて

理事長 有馬真喜子

新しい年を迎えました。今年も一緒に歩んでまいりましょう。みなさまのお声、実践、お支え、お励ましこそが(特非)国連ウィメン日本協会の力です。

2019年、平成31年は、内外ともに激動の年になりそうな予感です。国連を中心とするグローバリズムは影が薄くなり、自国第一主義の声がますます大きくなっているのはご承知の通りです。

日本では、4月「平成」が終わります。10月、消費税が上がります。G20も開催されます。2020年東京オリンピック・パラリンピックを前にして、高揚感や課題が目に見えるようになってくるでしょう。

そんな時代のなか、2018年のノーベル平和賞は、紛争下での性被害を自らの体験を基に告発した女性と、被害女性たちを治療し続けている男性医師に与えられました。今から8年前、2011年、やはりノーベル平和賞が3人の女性に与えられましたが、その時の理由は「民主化と平和構築に女性が果たす役割に光を当てる」でした。時代はどちらを向いて流れているのか、と思わざるを得ません。2018年の終わり近く、日本女性がショックを受けたのは、公正さを誰も疑わなかった大学入学試験においてさえ女性差別があることでした。世界経済フォーラムの女性格差順位が110位と言われても、残念ながらやはり“想定内”ですが、大学入試は“まさか”でした。

さて(特非)国連ウィメン日本協会(日本国内委員会)です。間もなくUN Womenと、改定承認協定を締結することになりますが、国内委員会は“パートナー”と位置付けられる一方、求められるのは事業のための資金集め、ファンドレイジングの強化です。これは国連機関共通の傾向になってきました。

私たちも努力をし、寄付をしやすくするホームページの作成や、クレジットカードを使っての継続寄付、銀行振り込みによるご寄付など、さまざまな仕組みを構築中です。

いただいたご寄付は、たとえ極貧の生活をしていても、難民になっても、女性と少女が自分に自信と尊厳を取り戻し、未来を切り開く力を身につけること、なかでも職業教育、たとえば美容師や理容師、縫製技術、IT技術を身につけて自立し、家族や社会の一員としていきいきと生きて行けるようになるため、などに使わせていただく所存です。趣旨に共感いただき、「行動」を起こしていただけることを心から願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



ザータリキャンプで職業訓練に励むシリア人女性

世界の動向を読む「SDGsのジェンダー平等」

前号に引続き、日本でも機運が高まってきたSDGsをテーマに、今号では世界的重要目標の視点から、今年日本で開催されるG20や、C20といった国際舞台での議論はどのように進むのか、その取り組みに直接関わっている三輪副理事長が説明します。

G20のジェンダー平等とSDGs

副理事長 三輪 敦子

(2019 G20サミット市民社会フォーラム共同代表)

2019年は、大阪でG20が開催されます。近年、G20やG7といった各国の首脳が集まるサミットにあわせ、様々な人たちがC20(civil society:市民社会)、W20(women:女性)、B20(business:ビジネス)、Y20(youth:若者)と呼ばれるグループをつくり、自分たちの課題や主張をサミットの議論に反映させようという動きが加速しています。これらのグループは、エンゲージメント・グループと呼ばれています。こうした変化の背景には、現在のグローバル化した社会における、グローバルにからみあった問題を理解し解決を探るには、政府だけではなく、非政府団体や市民社会が関わることが不可欠との認識があります。

現在の世界が取り組むべき喫緊の課題リストとしては、2030年を達成期限として実施されているSDGs(持続可能な開発目標)があります。SDGsについては、前回のニューズレターで田中理事より説明があったところですが、現在の世界の目標であるSDGsは、G20やC20の場でも重要な指針として活用されることになります。たとえば、2018年のアルゼンチンC20でマクリ大統領に手渡された「C20政策提言書(2018)」は、その前文で次のように述べています。

2030アジェンダ(SDGs)を実施するためには、G20は少数の人々のためではなく、すべての人にとって機能する経済成長を追求する必要があります。これは、2018年のG20議長国首脳が述べたように、これらの政策の中心に人々を置くことを意味します。政策づくりに取り組む人々は、誰ひとり取り残さない、包摂的な成長を追求する必要があります。

G20のエンゲージメント・グループでは、C20ジェンダーセッションとW20がジェンダーの課題を扱う場になります。この2つの場が補完しあい、相乗効果を発揮する形でG20の議論にジェンダー主流化を

図ることが理想的だと思います。同時に、C20ジェンダーセッションとW20の他のグループがジェンダーの課題に真剣に取り組むことも重要です。そのためには、SDGsの各目標が、どのようにジェンダーと関係しているかを具体的に理解する必要があります。

UN Womenが発行した「Turning Promises into Action(約束を行動に)」は、SDGsのすべての目標でのジェンダー課題の状況を報告しています。主なものを少しご紹介しましょう。

- ・目標2「飢餓をゼロに」十分な食糧が確保できない女性の割合は男性よりも11%多い。
- ・目標4「質の高い教育をみんなに」初等教育学齢期であるのに学校に通えない男子は1000万人、女子は1500万人。
- ・目標5「ジェンダー平等を実現しよう」39カ国では男女に平等な相続権が認められていない。19%の女性と少女は過去1年間の間に親しい相手から暴力を受けた。女性の国会議員割合は23.7%にとどまっている。
- ・目標6「安全な水とトイレを世界中に」家に水道設備がない世帯の80%では水を確保するのは女性と少女の責任。
- ・目標7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」調理に使う燃料による家屋の空気汚染で多くの女性と少女が命を落としている。
- ・目標12「つくる責任つかう責任」サプライチェーンの人権侵害は女性が被害者であることが多い。
- ・目標13「気候変動に具体的な対策を」女性と子どもが自然災害で命を落とす確率は男性の14倍にのぼる。

目標5が重要であると同時に、すべての目標の実現がジェンダー視点に立って進められることが重要なことがわかりいただけるでしょう。

G20やG7に出席するリーダーは政権の交代があれば変わりますが、SDGsは2030年までの世界の目標であり、政権交代や政策の変化に左右されない、私たち一人ひとりがめざすべき社会の指針です。ジェンダー平等を規定した目標5を実現し、そして17の目標全部にジェンダーを主流化するためにG20の機会を活かしたいと思います。



本部からのニュースリリース UN Womenの親善大使

UN Womenは、芸術、科学、文学、芸能、スポーツや他の公の分野で卓抜した個人を、親善大使に任命しています。2018年度は二人の親善大使が誕生しました。

スポーツ界から、ブラジルのサッカー選手、 マルタ・ビエイラ・シルバさん

2018年7月12日、UN Womenは、ブラジルのサッカー選手、マルタ・ビエイラ・シルバを、新しく親善大使に任命しました。彼女は、5年間ブラジルナショナルチームの一員で、現在はアメリカ合衆国のサッカーリーグのオーランド・プライドに所属しています。マルタは「スポーツは社会的文化的常識や、ジェンダーのステレオタイプ的な規範を変えることができます。女性・少女たちはスポーツを通して自信を持ち生活力やリーダーシップを向上していきます。何より健康になるし、自分の体を自らの体ととらえ理解できます。暴力がどんなものかわかるし、それからいかに逃れるかもわかります。女性のエンパワメントには、スポーツがとても重要です」と語っています。

しかし、スポーツ界で完全な平等を得るには、なお、長い道のりがあります。世界の女性や少女の多くは、スポーツする機会を与えられていません。より少ない投資、差別、セクシャルハラスメントに直面します。プロのアスリートは、差別的な報酬ギャップ、ガラスの天井に直面しているのも事実です。ヌカ事務局長は、スポーツは世界共通の言語であるとし、マルタの活躍が女性や少女のエンパワメントとジェンダー平等獲得への動機づけをすると、期待を寄せています。

ジンバブエから女優でライターのだナイ・グリラさん

ジェンダーに起因した暴力を根絶する16日間キャンペーン(11月25日～12月10日)にちなみ、UN Womenは、12月2日、女優で劇作家であ

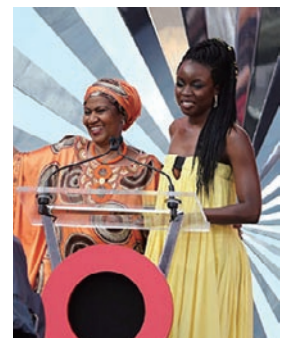
るだナイ・グリラさんを、新しい親善大使に任命しました。「劇作家として、女優として、また、女性のエンパワメントとジェンダー平等を追求する鋭い目を持つ活動家として、彼女は私たちの活動を支え、社会の周辺に位置する様々な女性たちと接してくれます。彼女の働きは少女たちにより大きな自信を与えるでしょう」とヌカ事務局長は語っています。

だナイ・グリラさんは、アメリカ生まれで、ジンバブエで育ちました。両親はジンバブエ人です。「ブラック・パンサー」や「アベンジャーズ：インフィニティウオー」に出演。その他多くの映画に出演しています。劇作家としては、様々な賞を獲得し、最新作の「ファミリア」はイエールシアターで初演されました。また、LOGpledge.org (Love Our Girls) を立ち上げ、女性や少女たちの窮地を訴える活動をしています。アフリカの劇作家たちに創作の機会を与える Almasi Arts の共同創設者でもあります。

(UN Women ホームページより)



シルバさん



グリラさん(右)

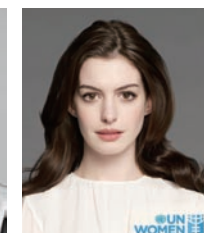
ハリウッドの女優3人も UN Womenの親善大使として活動しています。



ニコール・キッドマンさん



エマ・ワトソンさん



アン・ハサウェイさん

国連でつぎつぎ登用される 日本女性エグゼクティブたち

第9代国連事務総長アントニオ・グテーレス氏の女性上級職員増強方針により、国連組織内での女性エグゼクティブの登用が推進されていますが、その中で日本女性の活躍も目を引きます。

一昨年5月1日、副事務総長アリーナ・モハメッド氏(ナイジェリア出身)について、国連事務次長(軍縮担当上級代表)に中満泉氏が就任しました(フェリ

ス女学院、早稲田大学法学部卒)。日本人が事務次長につくのは9人目ですが女性では初めてのことで、メディアで話題になりました。中満氏は、2018年5月、フォーチュン誌発表の「世界の最も偉大なリーダー50人」に選ばれています。

昨年6月6日には、中満氏の後任となる国連事務次長補兼国連開発計画(UNDP)危機対応局長に、同じ日本出身の岡井朝子氏(英国ケンブリッジ大学エマニュエル・カレッジ、一橋大学法学部卒)が就任しました。岡井氏は日

本の外務省や国連代表部を含め、国際舞台で30年以上の経験があります。

同じく昨年3月1日、国連事務次長補(ASG)兼国連事務総長特別代表(防災担当)に水島真美氏(女子学院、一橋大学法学部卒)が就任しました。国連国際防災戦略事務局代表として国連防災世界会議などを担当します。防災・減災は世界中の喫緊の課題であり、日本人女性初の事務総長特別代表(SGSR)として活躍が期待されます。

(理事 鷲見 八重子)

応援メッセージ 入試不正事件はなぜ起こったのか

国立女性教育会館理事長
内海 房子



男性も女性もいきいきとその能力を十分発揮できる社会を構築するためには、それぞれの意識や、社会や職場の風土が重要な鍵を握っています。2018年夏に起こった東京医科大の入試不正事件。なぜこのような不正がなされたのか、東京医科大の関係者は「女性医師は出産や子育てで離職することが多く、男性医師が現場を支えているのが実情だ」と説明しています。ではなぜ、女性医師は出産や子育てで離職するのか、ここには大きな二つの問題が隠されています。一つは、出産はともかく子育ては女性がするものという固定観念。もう一つは医療現場に

おける働き方の問題です。

今から30年近く前に、米国の女性管理職を視察する機会があり、シカゴのあるIT企業を訪ねました。男女のエンジニアとの面談で、どのように仕事と家庭の両立を図っているのかと尋ねたとき、彼らは「何が問題なの?」という怪訝な顔をしていました。ここでは、男女ともに同じように働き、同じように帰宅する、したがって、家事も育児も二人で担うので何も問題がないというわけです。妻一人が、あるいは母親一人が家事も育児も仕事もと、孤軍奮闘している日本の女性たちとは大違いです。

女性の活躍推進が国の成長戦略の柱の一つに据えられてから6年が経過しました。関係する法律も整備され、これからの女性活躍の促進に期待が膨らみます。しかし、いくら法律が整備されても、男女の意識や、社会や職場の風土が変わらなければ、女性活躍政策が実を結ぶことはないのではないかと思います。極論を言えば、「日本の男性も定時で帰る」ことが必須なのです。そして、同時に「家事や育児は女性がするもの」という固定観念を払拭することです。

実は、この二つの問題は日本固有のものなのです。世界に目を転ずれば、日本の特異なところが見えてきます。国連ウィメン日本協会が世界に開く窓となり、私たちの目を開かせてくれることを願ってやみません。

NCミーティング報告 (於: フィジー) (2018年10月29-31日)

理事 本田敏江

今回の国内委員会ミーティングはオーストラリア国内委員会(NC)主催でしたが、フィジーでUN Womenが展開している人道支援活動を見学するため、同国のホテルで開催されました。第1日目には、今年初めに提示された新たな承認協定についてのセッションが開かれ、新承認協定の承認方法も大幅に変わったことが報告され、具体的な方針が示されました。日本協会には、より活発なファンレイジングの活動計画が期待されています。

会議が終了後、UN Womenが取り組んでいるプログラムサイト2か所を見学しました。初めは北部にあるラキラキマーケットを訪ねました。ここは2年前に大きなサイクロンに襲われ建物が大きく崩壊し、現在新市場を建築中でした。そこでマーケットベンダー(市場でものを売る土地の女性達)の話を聞きました。皆、口をそろえてUN Womenが実施しているリーダーシップ研修がとても役に立ったと言っていました。今までリーダーシップという言葉も知らず、ましてや自分がそれを行使できるなど思ったこともなかったが、今では組合の役員になって市場の男性管理者と対等に渡り合えるようになったと話してくれた女性もいました。そして将来やりたいこととして環境問題への対応と語ってくれ、彼女たちの歩みの確かさにとても感銘を受けました。

次に訪ねた西部にあるナウスリマーケットはさらに規模が大きくテーブルが1,500も出されているとのこと。UN Womenはこの女性ベンダーたちが安心

して泊まれる宿泊施設を提供しています。それまでは女性たちは地べたに寝たりして性暴力の被害が絶えなかったそうです。ラキラキマーケットでもそうでしたが赤ちゃんがものを売るテーブルの下や地べたに寝かされていて、兄弟らしい幼児が周りをうろうろしているのをいたるところで目にしました。気になってUN Womenの地域事務所の人に聞いてみましたら、女性たちはみな自分で子育てをしたくてどこかに預けるなどの選択肢はないということでした。

2つのマーケットで実際にUN Womenがどのようにプログラムを展開しているか、地元の人たちにどのように受け止められているのか、成果は何か、などが見られてとても興味深かったです。



UN Womenの日本語訳は 「国連女性機関」

このたび日本政府は「UN Women」の日本語訳を「国連女性機関」と改称しました。これまでは「UN ウィメン」としていましたが、日本語名にアルファベットが入るのは好ましくないのではという見解からのようです。

国連ウィメン日本協会の最近の活動から

●ホームページの改定

もっと見やすい分かりやすいホームページをめざして、現在改定を進めています。大きく変わる点は、ランディングページを新設したこと。これは寄付募集に特化したページで、アクセスされた方々に、寄付のねらいや寄付が必要な事項についてアピールし、その場で寄付できるような仕組みを整えたページです。2018年12月に公開しました。URLは<http://www.unwomen-nc.jp/donation/> 当協会の活動を十分理解していただくために、本サイトの改定にも着手しており、8月中旬には公開の予定です。

●シンポジウム開催報告

12月1日(土)に、国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業の一環として「自分を受け入れ自分を認め、一步を踏み出す～『キキ』の魅力と『自己肯定感』」と題してシンポジウムを開催しました。シンポジウムは、会場である津田塾大学の広瀬記念ホール一杯となる来場者を迎えて、基調講演とそれに続く鼎談という形式で行われました。基調講演では、国際アンデルセン賞受賞作家である角野栄子氏から「魔女の宅急便」のヒロインで自己肯定感の高いキキに託した想いを伺いました。角野氏は今回の講演に限らず、あえてテーマを決めず話を自由に展開することを心がけておられるとのこと、今回も第6巻からなる24年間におよぶ壮大なキキの物語について生き生きとした言葉で語っていただきました。角野氏の物語りの原点は、主人公が「見えない世界と見える世界を繋げる」ことにあり、見えない世界を見る心＝想像力を大切にしたいと語って下さい

ました。「自分で考える人になってほしい。自分の言葉で語れる人になってほしい。人は究極には一人。魔法は一人。誰の中にも魔法がある」と力強く結んで下さった言葉が印象的でした。第2部の鼎談では、昭和女子大学理事長・総長である坂東眞理子氏にコーディネーターをお願いし、医学博士・エッセイストの海原純子氏とRIZAPグループ株式会社代表取締役の松本晃氏を迎え、活発な意見交換が実現しました。松本氏は自己肯定感の定義はとても難しいとし「前向きに生きることができれば、もっと女性は活躍できる。女性の活躍なしには国は良くならない」と持論を展開、海原氏は自己肯定感とは「これでいいんだ」ということから始まる。あるべき姿、その自分に向けて一歩ずつ歩むことが大事だと熱く語って下さいました。最後に、坂東氏が偏差値で自分を決めつけるのではなく、様々な分野で才能を伸ばす機会や経験が必要と結んで活発な討議が終了しました。

(理事 芳賀日登美)



角野栄子さんによる
基調講演



右から坂東眞理子さん、海原純子さん、
松本晃さんによる鼎談

会員団体の紹介

国際ゾンタ26地区

国際ゾンタ26地区ガバナー 木下 彰子



国際ゾンタは1919年アメリカ合衆国ニューヨーク州バッファローで誕生した「奉仕とアドボカシーを通して女性をエンパワーする」ボランティア団体です。

2020年には本部のあるシカゴで100周年を記念する世界大会が盛大に開催されます。

世界63か国が32の地区に分かれており、約30,000人の会員を有しています。会員は男女を問いません。日本は単独で26地区。その26地区が

4つのエリアに分かれています。クラブ数は50。約1,000人の会員が活動しています。

ゾンタの活動は「奉仕」と「教育」に分かれています。「奉仕」活動では、UN Women, UNICEF, UNFPAなどのプログラムに参加。「教育」では航空宇宙学を学ぶ女子大学院生を対象とする「アメリカ・イアハート奨学金」、将来実業家を目指す女子大生を対象とする「JMK奨学金」に、公共サービスに貢献した19歳以下の女子学生を対象とする「YWPA奨学金」、そしてテクノロジーに携わる女性を対象とする「WIT奨学金」の4つの奨学金制度を持っています。

1期2年で、2年ごとに国際及び地

区役員は交代しますし、その度に世界会長は新しい活動目標を掲げ、世界中でその目標が達成されるよう奨励します。

今期の大きな目標は「児童婚を終結する」。児童婚は日本ではあまり馴染みのない問題ですが、アフリカやアジア諸国では女性の貧困の原因にもなる大きな問題なのです。「女性と子供に対する暴力撲滅」にもずっと挑戦し続けています。

毎年3月に開催されるCSWに於いても、UN Women, UNICEF, UNFPAなどと組んで多くのパラレルイベントを開催しています。

今後もUN Women とは大切なパートナーとして共に活動が続けられることを希望しています。

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

10月14日(日)、北九州市立男女共同参画センタームーブにおいて、国連ウィメン日本協会北九州主催の講演会を開催しました。

開会に先立ち、9月に逝去された当会の三隅佳子会長に哀悼の意を表し、全員で黙祷を捧げました。三隅会長は国連ウィメン日本協会の副理事長としてもジェンダー平等と女性のエンパワメントに長年ご尽力されました。心よりご冥福をお祈りします。

講演会ではまず、北橋健治北九州市長に「SDG sの達成に向けて～北九州市の取組み」をテーマに基調講演をしていただき、その後当会の会員団体から活動報告を行いました。どの団体も、それぞれの活動を長く地道に続けており、その活動はSDG sの達成にも繋がっていました。

今後も、「ジェンダー平等」を目標の1つに掲げるSDG sの達成に向け、会員相互の交流を図りながら取組んでいきたいと思っています。

事務局 鷹取典子



国連ウィメン日本協会 大阪

10月20日(土)、クレオ大阪中央にて、一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン(WRCJ)主催の「男たちの#MeToo－男性もハラスメントにNOを！」が開催され、国連ウィメン日本協会大阪として協賛し、ブース出展をしました。

当日は、エッセイストの小島慶子さんが講演され、ハラスメントの現状や背景について、自らの生い立ちやキャリアを踏まえてお話しされました。ハラスメント防止に向けた、小島さんの力強くもポジティブなメッセージを、たくさん受け取ることができました。

講演会の冒頭では、エマ・ワトソンUN Women 親善大使による国連本部で開催されたHeForShe

キャンペーンのスピーチ上映や、国連ウィメンの取組みや活動内容を紹介し、参加者の方に団体を知っていただく機会となりました。

また多くの方にブースに立ち寄っていただき、活動のPRや、グッズ販売などを行うことができました。

事務局 長栄くみ子



国連ウィメン日本協会 多摩

月に1回の役員会もなかなか全員がそろるのが難しい中、電話、メールで連絡は密にとるようにしています。イベントの回数は少なくしたものの、11、12月と他団体との共催のバザーと、今年度最後のイベントが続き、担当者は忙しい思いをしましたが、それなりの成果が上がりました。12月のイベントでは、若いママさんのアンサンブル、曲目も若い人らしい内容でした。また、「子どもの絵から見えるジェンダー意識」の講演は子どもを持つ人、孫のいる人達にとって非常に有益な内容だった、もっと聞きたいと、再講演の依頼が多く寄せられています。又近いうちに企画をしたいと思っています。

事務局 小川裕未



国連ウィメン日本協会 よこはま

4月、今年7年目を迎えるウィメンショップがリニューアルオープン。会員が日替わりでお店に立ち販売、広報、交流する大切な場。レイアウトも手作りでお客様から見やすいと好評です。

10月28日はセミナー、今年は女性の働き方にフォーカスしてパネルトークと茶菓を添えてのワークショップ交流会を開催しました。「自分らしく働くには」をテーマに自らを活かしエンパワーできる働き方について、行政、教育、企業、子育てと多方面のパネリストをお迎えして、時代の変化に対応する働き方や今後の指針を得ることができた有意義なひと時を過ごしました。新入会員、スポットボランティアも参加し地域にも男性にも開かれたセミナーとなりました。

事業部会 後藤久美子



国連ウィメン日本協会 東京

9月に「初秋のコンサート」をけやきホールで開催。バイオリンの原田亮子さん、ピアノの松尾久美さんの素晴らしいコラボレーションは聴衆を魅了し、参加者の心に残る演奏会となりました。広報活動の一環として毎年開催している連続講座は3回を計画し、6月にアフリカ地域最初の日本人司法アドバイザーとしてJICAから派遣された原若葉氏による「アフリカの現地女性プロフェッショナルと協働した2年4ヵ月—コートジボワール共和国司法省にコールセンターができるまで」を、10月に田中悠里子氏の「デンマークの教育や子育てを通して感じたあまりに自然なジェンダー平等社会」を、11月には引き続き田中氏による「フィリピンの貧困救済活動から」を開催、それぞれ考えさせられることの多い勉強会になりました。

事務局 阿部幸子



国連ウィメン日本協会 さくら

2015年9月にニューヨーク国連本部にて採択されてから、国連ウィメン日本協会さくらでは、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」に対する学びを深めております。

今年の春には国連大学初代事務局長であり、一冊の会最高顧問に就任された伊勢桃代先生による講演を開催し、秋にはアジア太平洋女性連盟 (FAWA) フィリピン総会に一冊の会が日本代表として参画しました。FAWAフィリピンでは他の国・地域のNGO/NPO団体と共に女性の能力が発揮される社会創設に向けてまたSDGs達成へ向けて政府、民間、地域と連携していくことを誓い合いました。

今後も、SDGs達成のために、「今自分に何が出来るか」を、特に若い世代へと発信するための勉強会や活動を行って参ります。

広報部 城杉



●募金箱

協力協定団体へ募金箱を配布しました。



事務局からの報告

■マンスリー寄付のお願い(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて、毎月定額を継続しての寄付(マンスリー寄付)ができます。一回手続きをしていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。

月額1,000円、2,000円、3,000円、5,000円の4つのコースから選ぶことができます。国連ウィメン日本協会ホームページからアクセスをお願いします。

◎マンスリー寄付、インターネット寄付はこちらからホームページの「カンパ決済」

<https://kessai.canpan.info/org/kokurenwomennihon/>



■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくかホームページでもお申込できます。

【年会費】個人 1口 5,000円

団体 1口 10,000円



■寄付者一覧(前回掲載以降2018.12.28現在)

上原正臣 初井慎次郎 讃井暢子 大川紀代子 衛藤栄津子 小野啓子 山里璃沙 山崎友子 星野利香 本田均平 本田敏江 鷺見八重子 佐藤想子 岩城淳子 籾内麻貴 周欣宇 ブックオフコーポレーション(株) サイトウトモキ 飛姫 宇賀神美雪 端数倶楽部 富士ゼロックス株式会社 斉藤京子 小林慶彦 ビューティショップK 小笠原崇嗣 藤井紀代子 山崎員世 酒井真喜子 高田順江 石橋三洋 橋本ヒロ子 ガールスカウト奈良県第51団シニア部門 武井千恵子 梅沢幸代 今井公美子 阿部晴子 山田彰子 吉田昭代 大山行雄 藤本京子 大脇蘭 マツダタロウ ヤコヨシヤス ササキチグサ 福田和夫 神田さち子 株式会社ソシア 国連ウィメン日本協会よこはま 望月浪江 酒井興子 中川裕士 国連ウィメン日本協会多摩

■クラウドファンディングによる寄付

南部達夫 吉崎裕一 伊藤千鶴子 レオン昌子 沼田祐子 小宮山美穂 樽谷文代 上杉史乃 衛藤栄津子 廣瀬玲子 武井千恵子 渡邊皓子 板垣新一 加藤澄子 横須賀ゾンタクラブ 高田順江 高橋克子 鷺見八重子 岩城淳子 矢島歯科医院 三輪敦子 高石由美子 伊藤光子 亀田温子 田中由美子 荒真理 芳賀日登美 宮坂洋子 森真理子 吉川真由美 橋本ヒロ子 清水あつ子 本田敏江 目黒依子

■ブックオフ宅便寄付(前回掲載以降2018.12.28現在)

猪又晶介 鈴木晃子 延江裕子 竹本和永 飯野陽子 矢部万紀子 江川淑枝 山崎員世 上岡美代子 宮下直美 田中都志子 山根君江 高井尚子 一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会 上鶴瀬典子 藤井礼子 小林淳子 庄司かつ子 小野寺智恵子 国連ウィメン日本協会よこはま 伊達美晴 香掛秋子 平田修 井上律子 豊島香 明山純子 木山邦子

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体16団体(前回掲載以降2018.12.28現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 全国友の会 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会 国際ゾンタ26地区 (一社)大学女性協会 (公財)イオン1%クラブ (株)高島屋

■正会員個人38名(前回掲載以降2018.12.28現在)

■賛助会員団体13団体(前回掲載以降2018.12.28現在)

久留米市男女平等推進センター 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 国際ゾンタ姫路ゾンタクラブ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ (株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー (株)フジテレビジョン (株)クロスメディア・ランゲージ

■賛助会員個人149名(前回掲載以降2018.12.28現在)

新規入会: 細島汐華 柳澤一恵 石川理子 矢野由香里

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL.FAX. 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

